

ウィズコロナの国際交流

世界的な新型コロナウイルス感染拡大のため、海外への渡航が依然難しい状況にあるなか、国際交流センターではオンライン留学を実施しています。この夏も、夏期留学プログラムをオンラインで実施し、12名の学生が参加しました。この留学に参加した学生に、そこでの経験を語っていただきました。



海外の視点、同世代との交流に刺激を受けた「オンライン留学」

法学部法律学科2年 袴田 翔

留学先：CIE オックスフォード（英国）
留学期間：2021年8月2日～8月20日

私は今回のCIE オックスフォード（英国）の夏期留学プログラム（オンライン）に参加して、日本で生活しているだけでは学ぶことができない多くのことを学びました。

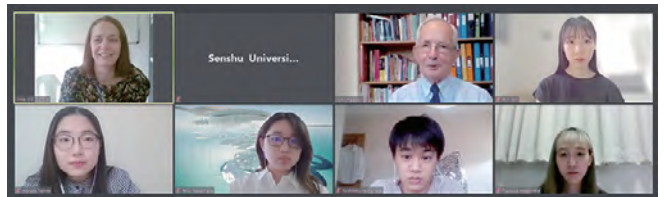
私は英語が苦手で、オンラインで発言することも慣れていなかったため、初めはとても不安でした。オンラインでは、直接人と接するのと勝手が違い、細かなニュアンスやジェスチャーなどが伝わりにくく、より言語力が求められると感じました。

しかし、現地の学生が「私も日本へ行ったときに日本語が完璧だったわけではないから気持ちが分かる。辞書とかで調べながらゆっくりでいいよ」と声をかけてくれて、気持ちが楽になりました。

それからは、単語の羅列でもよいからとにかくチャレンジしてみようと思いました。また、現地の学生だけでなく先生方や一緒に授業を受けた専大生にも助けをもらいながら、楽しく授業に参加することができました。1週目と3週目を比べると、自発的な発言回数も増え、授業内でのクイズも正答率が上がり、とても嬉しかったです。

講義では、もともと興味があったメディアとSDGsについて、日本とは違う視点での意見や日本と類似する問題点を知ることができました。英語が苦手でも、先生方はスライドを使ってゆっくりと説明してくださったので、よく理解できました。

印象的だったことはたくさんあります。一番は現地の学生と話したことです。世界から日本がどう見えているのか、私たちとの意識の違い、似たところなど、学ぶことが多くありました。今の社会の話題についてもディスカッションをしましたが、知識量や問題意識のレベルが全く違いました。ほとんど同



じ年齢なのに大きな差があることに衝撃を受け、よい刺激にもなりました。

また、プレゼンテーションをした際には、オンラインではどのように相手に伝えたらいいかなどのアドバイスをいただき、発表の仕方を学ぶことができました。プレゼン用に作った英語の台本は、現地の学生が添削してくれ、台本を読み上げた音声を送ってくれたので、本場の英語を学ぶことができました。

今後、社会ではオンラインでの面接や仕事が増えると思うので、そうした場で今回の経験が活かせると考えています。

オンライン留学を経験し、イギリス現地へ行きたいという思いは一層強くなりました。今回学んだイギリスの歴史・文化などの知識をさらに勉強し、いずれ現地へ行ったときに活かしたいと思います。

英語については今TOEIC®の勉強をしていますが、リスニングは聞き取りやすくなったと感じていて、学習を続けていきたいと思っています。また社会問題に関する知識や考えは、今後社会に出たときに必ず必要になるので、この留学経験を活かし、他国の人の意見も参考に、自分には何ができるかなどを考えたいと思います。



プレゼンテーションで使ったスライド